

## 「史跡渋野丸山古墳保存管理計画」（素案）に対するパブリックコメント及び回答

意見募集期間：平成24年3月26日～平成24年4月27日

意見提出者：5人

提出意見数：28件

計画の修正：提出いただいた意見に対する市の考えかたは、別紙のとおりであり、今回ご意見に基づく修正は2箇所です。  
なお、他のご意見につきましても、今後本計画を推進していく上での参考とさせていただきます。

	意見の概要	市の考え方
1	古墳の歴史的価値を高めるためもあって、遺物・遺構をレプリカで見てもらい、訪れる人に発掘調査の現場に立ち会っているかのような感じを味わってほしい。	
2	現在農免道路沿いのミカン畑となっている所を、周濠として復元すべきである。このことにより、洪野丸山古墳の全体像が一段と鮮明になると思われる。更に、現在埋没していると思われる古墳の一段目も明らかになり、学術的にも有意義なものとなるだろう。	遺構や遺物の露出・復元展示は、史跡の活用面からも大きな効果があると考えられますが、整備後の管理の継続性や安全性なども考慮し、整備計画において検討したいと考えています。
3	周濠の外までの形を表示する。	
4	墳丘に通じる園内の散策道は、けもの道のようなものにするだけで、人工的な度合いの少ない、自然な整備になればいいと思う。	古墳までの進入路および散策路は、古墳の保護はもとより、安全に古墳を見学していただくためにも重要であると考えられます。
5	見学者が歩く道を作って、墳丘を壊させないようにする。	自然豊かな洪野町の景観にふさわしい整備を検討したいと考えています。
6	洪野丸山古墳の保存活用の方法としては、築造当時の姿とする。古墳が人工物と見えない長い年月の変化のままにおくのではなく、築造当時の姿として容易に古墳とはどんなものであるかわかるようにする。具体的にいえば、神戸市の五色塚古墳の状態にするのがよいと考える。	
7	古墳のもとの姿や形を知らない人にとっては、どのような整備方法が良いかを定めることは難しい。竹林や巨木が古墳の景観を阻害しているようには思えないし、イメージアップを図るための埴輪や古墳の模型も必要ではないと思う。駐車場や公衆トイレはもちろん、そこが憩いの場とするのに適しているのかという疑問も浮かび上がる。保存のためにも、価値を顕在化するためにも、活用するためにも新たに何かを付け加えたりせず、今の姿で残していけるように整備するのが一番ではないかと考える。	古墳の整備では、古墳の全体や一部を築造当時の姿に再現する方法、また、現状の姿を活かし自然に近い状態で整備する方法も考えられます。 洪野丸山古墳の特性や周辺環境などにも配慮し、整備計画において検討したいと考えています。

8	現在後円部二箇所が大きく削平されており、古墳の景観を損ねている。盛土等で元の形状に復元すべきである。	後円部の削平部分の補填については、古墳の整備において重要でありますので、整備計画において検討したいと考えています。
9	丸山古墳周辺に休憩所・ベンチなどを設置し、見学者の憩いの場を作ってはどうか。	<p>渋野公民館には外部トイレが設置されており、休館日に使用することもできます。</p> <p>古墳の見学だけではなく、さまざまな人が集える「場」として、便益施設の設置についても検討したいと考えています。</p>
10	公民館が休館のときのために、古墳の近くにトイレを設置する必要がある。	
11	墳丘上に自生している巨木は将来的には墳丘を破壊する可能性が高いと考えられる。色々と意見はあると思うが、伐採すべきである。	<p>墳丘上の樹木は、遺構の保護や古墳の景観に影響を及ぼすおそれが考えられますが、樹木の伐根時に遺構を傷める可能性もありますので、樹木の伐採については整備計画において検討したいと考えています。</p>
12	墳丘上の樹木・竹林等は、古墳の景観を著しく損なっている。特に古墳北側は竹林化が著しい。見学者より、農免道路から古墳の全体像が分かりにくいという指摘がある。墳丘上の樹木等は、全て伐採すべきである。	
13	マムシ出没の注意看板を設置する。	<p>渋野丸山古墳は周辺の自然と一体化していますので、野外で生息するヘビやハチなど危険な動物・昆虫に対し注意を喚起する掲示についても検討したいと考えています。</p>
14	渋野町内に点在する県指定史跡の古墳等の案内板および解説板の早急な設置。	<p>現在、渋野町に所在する古墳の案内板は八幡神社前に設置しています。</p> <p>各古墳の解説板やマップ、パンフレットは史跡に対する理解や関心を深める上で重要ですので、情報発信の有効な方法についても併せて検討したいと考えています。</p>
15	各古墳の標識や解説パンフレット、史跡および古墳マップ等の作成も重要である。	
16	<p>現在、渋野丸山古墳の周辺には案内板や解説板があるようだが、それだけではその場に出向かなければ古墳のことはよくわからない。図書館に行けばたくさんの古墳に関する文献が見つかるが、知識のない一般人にとって考古学の用語が並べられた文献を読むのは難しいうえ、時間も要する。しかし、古墳について詳しく書かれたパンフレットがあれば誰もがそれを見たり読んだりすることができる。そして、そのパンフレットを地元の町だけでなく徳島の観光名所に置くことで古墳の存在を示すこともできる。また、パンフレット以外にも徳島市のホームページを活用するという手段もある。地域住民によって守られたものを次世代に継承するための最良の方法ではないか。</p>	
17	見学者用のパンフレット等を公民館外に置く場所を作る。	

18	<p>地域住民のみならず、広く市民に働きかけみんなで守る渋野の古墳と言う意識を高めることも大切である。そのためには、古墳の現地研修会等は極めて有効な方策であると考えます。</p>	<p>発掘調査時の現地説明会、史跡めぐりやシンポジウムなどの開催を通して、地域住民だけではなく、より広く市民が古墳の保存に対する理解を深める方法を検討していきたいと考えています。</p>
19	<p>渋野町はもとより、丈六・多家良・八多・勝占地区等周辺地域には、貴重な文化財が多数存在している。この豊かな文化遺産を地域おこしに活かすため、周辺地域間の連携を深めるべきである。</p>	
20	<p>地元文化財保勝会の積極的な活用も大切である。古墳の清掃活動も意義深いものである。また、文化財に関する研修会等も定期的開催する必要があると思う。</p>	<p>地域住民で組織される渋野町文化財保勝会による古墳の環境整備活動は、史跡の環境保全の面からも重要であると考えています。 保勝会の会員を対象とした研修会による人材育成、周辺地区の文化財保勝会との連携、さらに保勝会を核に地域を越えた個人や団体が活動に参加できる仕組みについても検討したいと考えています。</p>
21	<p>現在は保勝会による清掃活動なども地元の高校に呼びかけるなど若者にも協力してもらおうが良いと思う。古墳を通じて若者と高齢者が協力した町づくりが古墳のある町を盛り上げていくと考える。</p>	
22	<p>「渋野丸山古墳」だけの保存整備活用計画が策定されることは、将来の渋野地域の古墳の保存活用に有効ではない。これまで「渋野古墳群」として知られてきたのであるから、その中の「丸山古墳」だけを今般計画を立て実施しても、他の古墳は消滅したということになる心配がある。国指定史跡の範囲だけを対象とする「検討委員会」の設置に疑問がある。「渋野古墳群」の全体を考えた組織や活動を考える必要がある。</p>	<p>渋野丸山古墳は「渋野古墳群」の一つであり、本来、渋野地域における古墳群の中での歴史的な位置付けを行うことが必要であると考えています。 今回、盟主的な存在である渋野丸山古墳の保存管理計画を明確にすることで「渋野古墳群」としての保存と活用に波及させることを検討したいと考えています。</p>
23	<p>今回の保存管理計画対象は主に渋野丸山古墳だそうだが、将来的には県指定史跡等を中心とした「渋野町史跡公園」として整備する方向で検討してほしい。</p>	
24	<p>渋野丸山古墳の史跡指定範囲内の大半は、民有地である。国指定を契機に他の市内重要史跡同様に、早急に公有地化を図るべきである。その事により、後々の施策が効率的に推進出来ると思われる。</p>	<p>整備のためには土地の公有化が原則と考えておりますので、今後公有化に向けた取り組みを進めたいと考えています。</p>

25	<p>学校教育との連携も大切である。公民館活動の中に、地域の文化財に関する研修・講座などを開設し、子どもたちに文化財の大切さを教え、後継者の育成を図ることも大切である。</p>	<p>学校教育・社会教育での歴史学習の機会を充実し、特に次世代を担う子どもたちの史跡に対する意識を高め、世代を越えた地域住民の交流による史跡の活用についても、今後重文に検討したいと考えています。</p>
26	<p>史跡内の竹林や巨木を伐採するのであればそれを使用した木工教室の開催や地元の小学校へ作ったものを寄贈するのがよいと考える。このことは地元の住民と住民、あるいは地元の住民と来訪者の交流の場にもなる。</p>	
27	<p>古墳墳丘の南側と西側は水田にして、稲穂が風になびいて、「古代蓮の池」でいにしへの風情がしのばれる景観に。古代蓮のレンコンはおいしいそうなので、古代食作り体験の時に活躍してくれるはず。墳丘の北側と東側は「里山」を再現して、のんびりと過ごせる四季を感じる空間に。春はタラやわらび、ふき、タケノコ（エリアを制限して竹林を残して）など。初夏は山藤が咲き、秋には山に自生する渋柿、あけび、後円部頂のくりが実る。これは、訪れる人が獲ることができるとなおいいと思う。</p>	<p>ご提案のとおり、四季を感じさせる稲穂や蓮が生み出す風景は、史跡の価値を広く共有するための要素の一つとして考えられます。また、史跡の価値を多方面から捉え、新たな史跡の活用方法により地域の活性化につなげることも重要であると考えられます。          渋野丸山古墳を舞台に、自然とふれあい、人との交流を楽しむことができる活用を検討したいと考えています。</p>
28	<p>現在、この古墳はほとんどが田や畑として使用されている。この土地を農業高校の生徒に提供し、地元の農家の協力も得て、野菜を栽培する。そして、その作った野菜を「古墳野菜」として、とくしまマルシェや産直市、近隣のスーパーで販売する。さらには、その野菜を使った商品開発を地元の高校生に依頼する。若者が古墳の存在を身近に感じることができる環境を作るのがよいと思う。このように若者に何かできる場があれば、それは次第に地域の活性化につながり、地域の人々との交流の場にもなる。</p>	